

1. 大人になるってこと

大人になるってことは 輝きを失っていくこと
そんな気がして いつまでも ガキのままでもいいさといきがって

大人になるってことは 自分を削っていくこと
角が取れて やがて丸くなって 消えてゆくような気がしてた

押し寄せる日々には怯え がむしゃらに追いかけて
やみくもに嘔みついて 気づけば見失っていた

たまには立ち止まってみよう あたりを見渡してみよう
握り続けた 拳を開いて 大切なものに触れてみよう

大人になるってことは あきらめ上手になること
できもしないことにいつまでも しがみついていないこと

大人になるってことは 見えなくなるものが増えること
だけど今でも いつまでも 色褪せないものに気づくこと

あの頃と同じように 無茶はできないものさと
苦笑いしてる今も 立ち止まったわけじゃない

大人になったからって 自分じゃなくなるわけじゃない
本当は何も変わっちゃいない 自分がここにいるだけ
明日もここにいるだけ

2. うまらないパズル

こうして笑っているけれど 満足しているわけじゃない
こうして走り続けてるけど 輝き続けてるわけじゃない
誰もがあきらめて その場に腰をおろす
欲しいものには夢という きれいな名前をつけて

本当に欲しいものだけが 決まっていつも手に入らない
今ではこうして山のような ガラクタ抱え込んで生きている
全てを捨てることに 今では怯え始めた
崩れることのないベッドに 少し目をくらませている

帰り着く場所なんて 最初からなかったはずさ
今でも いつまでたっても
深い椅子に座るなんて 似合わないことだろう
どこにも腰をおろさないまま

どこにも行き場はないけれど 骨をうずめるわけじゃない
どこかに落ち着くことだけを 望んで生きてきたわけじゃない
ここにも慣れてきたけれど 何かをつかんだわけじゃない
どうにかここまで来たけれど たどり着いたわけじゃない

少し道をそらせば すぐにたどりつくだろう
少しずれたゴールなら 誰かが連れていってくれる

帰り着く場所なんて 最初からなかったはずさ
今でも いつまでたっても
深い椅子に座るなんて 似合わないことだろう
どこにも腰をおろさないまま

たどり着く場所なんて 最後まで見つかりはしない
満たせない 夢ばかり見ながら
最後のひとかけらだけを いつまでも探し続ける
うまらないパズルを抱えて

3. My Life Is...

お金がなくてギターの弦を張り替えられない
達成できないチケットノルマの代金払えない
オークションで安く落としたギターかき鳴らし
ギブソン,マーチン弾いてるやつよりいい音出してやる

さぁ仕事しよう 働こう しっかり稼ごう
My Life Is Music 歌い続けてる

音楽やって食っていけるかとみんなは言うけど
食っていくことと歌ってくことは
本当は関係ないんじゃない
でも食べなくなったら野垂れ死にしても
いいなんて思うわけじゃなく
死んでしまったら歌えなくなるし
あの娘の喜ぶ顔も見れない

仕事しよう 働こう しっかり稼ごう
My Life Is Music でもギブソン欲しいな マーチンもいいな
ギルドもなかなか My Life Is Music
LaLaLa... My Life Is Music

4. 笑顔のすきま

窓を開けて 風を取り込めば
淀んだ気分も ちょっとは晴れてゆくさ
ベランダでは 洗濯物がゆれて
迷いこんできたスズメがじたばたしてる ありふれた 日常

テレビをつけて 笑ってみよう
悲しいニュースを 拾い集めてないで

ささやかな 笑顔を作ろう
笑顔のすきまから 見える未来もあるさ

窓を閉めて エアコンかけて
大好きな歌を 歌いながらドライブ
坂を登って カーブを過ぎたら
海が見える丘に車を止めよう ありふれた風景

車を降りて 風を吸い込もう
両手を広げ 空を見上げて

ポカンとした 笑顔を作ろう
笑顔のすきまから 流せる涙もあるさ

顔を並べて 写真を撮ろう
夕陽をバックに 夜がくる前に

不器用な 笑顔で写ろう
笑顔の写真を 部屋の隅に飾ろう
ありふれた 日常 大切な 風景

All songs written and played by Yamashin
Copyright © 2024 Yamashin All Rights Reserved.

この音源並びに歌詞を、著作者の許諾を得ずに個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じて転載、送信できる状態にすることを禁じます。

5. 風が吹いたら

風が吹いたら 羽根を広げて
どこまでも舞い上がってみよう 今はまだ見も知らぬ所へ
助走をつけて 地面を蹴って
余分なものは置いていこう 重たい荷物は置いていこう

見下ろしてみれば なんてちっぽけな
あの町並みの中で 僕らは見失ってた

風が吹いたら 迷わず行こう
あの雲を突き抜けて行けるさ 準備などなくても行けるさ

雨が降ったら 傘を広げて
ブーツに履き替えて歩こう 雨宿りばかりもしてもらえない
震えるような 寒い夜には
少しでも足早に進もう 明日が凍りつくその前に

どこへでも行ける 今も信じてる
誰にも止められない 僕らは動き出してる

雨がやんだら 傘をたたんで
あの雲の間まで行こう あの虹の向こうまで行こう

時には嵐のような風と スコールみたいな激しい雨に
背中を丸めて やり過ごす日も悪くはないさ

風がやんだら この足で歩こう
瓦礫をかきわけて進もう 今は誰も知らない未来へ

6. デビル

近頃男と遊んでないし
何だか間が抜けたような夜が続いて
この際あいつでも仕方ないかな
どうせ電話すれば飛んでくるんだから

コンビニでビールとピーナッツを買ってきて
約束の時間に絶対遅れないで
今夜は何だかもの寂しいから
眠くなるまでは恋人でいてあげる

たくさん愚痴もこぼしたし かなりビールも回ってきた
もうそろそろ 眠くなったから 悪いけど 帰ってくれる？

今夜は何だかもの寂しかっただけ
変な期待なんかしたんじゃないでしょうね

用事があつたらこちらから電話するわ
あなたから勝手に電話をよこさないで
友達に私とつきあっているなんて
勝手な誤解を自慢したりしないで

寂しい夜が続いたし 今夜ぐらいいは誘ってあげる
久しぶりに 夢を見させて でもあなた イマイチみたいね...

今夜は何だかもの寂しかっただけ
退屈しのぎに恋人のフリしただけ

7. 涙の向こう

青いフェンスの向こうにゆれる
自転車の影 みつけて僕はこらえきれず 表へ駆け出した
風を切るように坂を降りてく
自転車の後ろ 顔に当たる風をこらえて 背中にしがみつくと

家に着くまでの時間をずっと独り占め
柔らかく頬に触れる背中のぬくもりを
僕はいつまでも覚えている
水たまりの上を両足上げて 通り越しては笑ってた

いつも一人で待ちくたびれて
窓の外を眺めながら涙こらえて 肩を震わせた
寂しくなんかない 泣いてなんかない
歯を食いしばり 強い男の子だからって 大丈夫だからって

さりげなく頭を撫でるその手を合図に
こらえてた涙が雨のように溢れそう
ふてくされたフリでごまかした
そっと見上げた涙の向こう 優しい笑顔が見えた

さりげなく頭を撫でるその手を合図に
こらえてた涙が雨のように溢れそう
ふてくされたフリでごまかした
そっと見上げた涙の向こう 優しい笑顔が見えた
背中にしがみつくと 涙を拭いた

8. 小さな街の隅っこで

小さな街の隅っこで 薄暗い街灯ひとつ
小さな街の端っこを 人知れず今日も照らしている

今夜も賑わう駅前あたり 誰かがギターかき鳴らしながら
魂燃やせと歌ってる 激しく生きると叫んでいる

見通の悪い道を 今日もうろつきながら
身の置き場を探しては 今日も街灯の下

小さな街の隅っこで 古びた歌を歌いながら
誰かに届けと願っている 声をからして歌っている

ムーブメントはいつも 泡のように流れてゆき
枯れた夢のかけらが この街にあふれている

小さな街の隅っこで 古びた歌を歌いながら
誰かに届けと願っている 声をからして歌っている
君に届けと歌っている

All songs written and played by Yamashin

Copyright © 2024 Yamashin All Rights Reserved.

この音源並びに歌詞を、著作者の許諾を得ずに個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じて転載、送信できる状態にすることを禁じます。

9. ゴールイン

出会った頃は遠くて ぼんやり君を見ていた
どんなに手を伸ばしても 届かないと思ってた

ぼやけた人混みの中 君だけが僕を見つけた
僕は腕組みをやめて 君の手を握りしめた

これからずっと二人で この家で暮らしていこう
僕らの笑い声が 壁や柱にしみこむまで
夢を語るよ そんな暮らしのスタートを切ろう

一人じゃ抱えきれない 夢を二人で持ち上げ
僕らは歩き続けた 長い長い道のりを

いつしか時が流れて 先に一休みするよ
随分白髪も増えたね 今まで気づかなかったけど

長い間ありがとう ここまで連れてきてくれて
いつまでもそばにいるよ
思い出せばすぐそこにいるよ
ゴールの向こう 気長に待つよ 見送りをありがとう

二人で過ごした日々は 家中にしみついているから
いつでも語りかけるよ 永遠にここにいるよ
ゴールの向こう 気長に待つよ 見送りをありがとう
幸せをありがとう

10. Power Of The Music

そろそろ出かける時間だ
車のリアシートを倒して
はち切れそうなスーツケースと
ギターケースを詰め込んで
エンジン全開 今夜歌うあの街まで

ナビがインターチェンジへ誘ってる
気分は上々 快適な下道の旅
急ぐトラックに煽られ 登坂車線に逃げ込む
あの街に着くまであと何時間

どれだけかかっても行くんだ 朝が早くても行くんだ
今夜そこで歌えるなら 何でってそれが
Power of the music

たどり着いた宿はネットカフェ
隣のオヤジがいびきをかいてる
今日も売れ残ったCD 余ったチケット数えて
悔し涙をこらえて目を閉じる

不器用な手拍子が聞こえる 誰かが足でリズムを取ってる
それだけでも力になる そうなんだこれが
Power of the music

そこそこ嫌なことあったり なかなか面倒くさいヤツがいたり
でも音楽を聴いてるだけで ちょっとは元気も出るだろう
Power of the music

11. 本当の君は

君が探してたもの そろそろ見つけたかい
長い長いトンネルの 出口は見えた頃かい
いつも歯を食いしばって 負けるもんかと立ち向かって
乗り越えた痛みの数だけ 確かなものは見つけたかい

君は描いた地図の 最短ルートたどり
寄り道もしないまま ただ走り続けている
いつかつまづいた時も 手当てもせず立ち上がって
痛みさえ忘れたその心 満たすものには出会えたかい

もっともっと笑おう 幸せに理由なんかいらぬ
涙かれるまで泣こう 悲しみに答なんかいらぬ
ずっと探してた本当の君は そこにいるじゃないか

君の望む未来に 近づいてゆくために
かき集めたもの全部 両手に抱え込んで
足をふらつかせながら 息を切らしながら
浅い眠りの中で見た 夢は胸をときめかせたかい

ちょっとだけ休もう 自分を許してみよう
こっそりと逃げ出そう 少しはみだしてみよう
ずっと隠してた馬鹿げた夢が そこにあるじゃないか

もっともっと笑おう 幸せに理由なんかいらぬ
涙かれるまで泣こう 悲しみに答なんかいらぬ
腹の底から怒ろう 踏み続けたブレーキを外して
情けないほど落ち込もう 深い海の底まで沈んで
ずっと探してた本当の君は そこにいるじゃないか

All songs written and played by Yamashin

Copyright © 2024 Yamashin All Rights Reserved.

この音源並びに歌詞を、著作者の許諾を得ず個人範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じて転載、送信できる状態にすることを禁じます。

12. 君がいた街

まだ淡い光が おぼろげな影をつくる
風に揺れる街が 君の姿さがしてる
過ぎてゆく季節 ドアをあける君
歩き出す足音に 耳をすまして

君とよく歩いた 駅へと続くあの道
ゆっくり動き出す 鮮やかな路面電車
変わりゆく景色 移ろう人波
静かに佇み見守る街路樹

君のいない街は 色あせた風景画みたい
あの頃より華やかな
街並みさえ寂しく見えるのは
君のいない街に 残された思い出のせい
塗り替えられた舗道に
足を踏み出せないまま

君とよく話した あの店から漏れてくる
聞き覚えのない歌と 穏やかな笑い声
動き出すバスの アナウンスが響く
ターミナルで手を振り 見送る人たち

君のいない街は 音を消した映画みたい
あの頃より賑やかな
街並みさえ 静かな気がして
君のいない街に 残された声をさがしてる
この街で描いてきた日々を
書き換えられないまま

君のいない街は 色あせた風景画みたい
あの頃より華やかな
街並みさえ寂しく見えるのは
君のいない街に 残された思い出のせい
塗り替えられた舗道に
足を踏み出せないまま

13. 永遠の旅

誰に気づかれそうもないような
どこに続くかも見えないような
道なき道を 泥だらけになりながら走った
少年のように

誰の声にも耳を貸さず
誰と手をつなぐこともなく
霧をかきわけ どこに行こうとしてた
何度も 足をとられながら

西も東も 過去も未来も
飛び越えていく 翼を探して
右も左も 明日も昨日も
空も大地も きらめく星も

今はただ風のように自由に
空を超え美しい旅に出る
泥にまみれた その靴を脱ぎ捨てて
気ままに 道なき旅へ

遠い夢も 輝く思い出も
距離を飛び越え 時をすり抜け
胸の痛みも 鼓動の高鳴りも
果たせぬ夢も 変わらぬ現実も

今はただ風のように自由に
空を超え美しい旅に出る
泥にまみれた その靴を脱ぎ捨てて
気ままに 道なき旅へ
自由に 永遠の旅へ